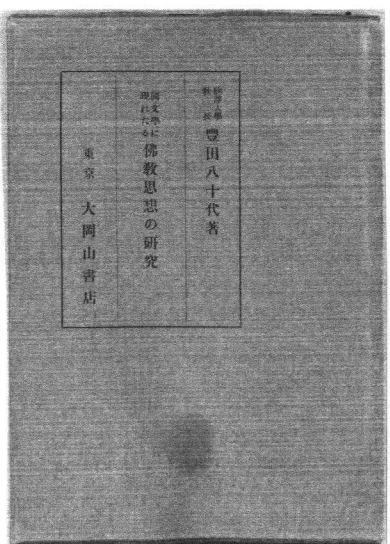


豊田八十年代 （註） 國文學者。慶應四年四月二十三日播磨國姫路生れ、
 昭和十六年四月十五日歿（一八六一—一九四一）。舊姓柴山、幼名八十八。號
 素山。初め舊姫路藩之文武總督松平惇典に漢文を學び、その教頭となる。
 兵庫師範學校卒業後、姫路中學校教諭。當時の教へ子に辻善之助が居
 り、その姉と、このちひ結婚。その後上京して青山師範學校教諭とな
 り、明治四十五年奈良女子高等師範學校に轉任、大正九年退職。日本
 史學者豊田武の父。

著書に、『國定新讀本の研究—高等第一學年』（明治四十四年十一月十九
 日學海指針社）、『土佐日記新釋』（大正六年四月十五日廣文堂書店）、
 『萬葉集新釋』（大正十四年六月十日廣文堂書店）、『國文學に佛敎
 思想の研究』（昭和七年五月五日大岡山書店）、『萬葉集と淡路島』（昭和十
 二年四月一日攝陽商船株式會社）、『唐詩選新解』（昭和十五年一月
 十八日同盟出版社）等。主語、遺吟、途徑集を收めた『思ひ出』（昭
 和十六年七月二十五日豊田武編輯）がある。



豊田八十年代著
 佛敎思想の研究
 大岡山書店